



理科




公開授業②

-Challenge to Creative Lessons-

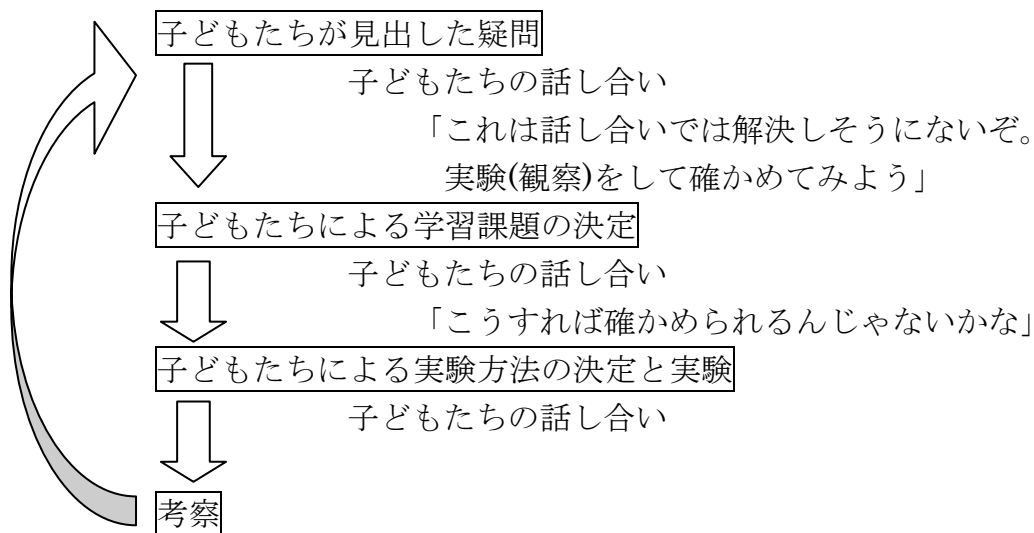
CCL

身の回りの事象をもとに，子どもたちが
創り上げる理科学習

第4学年 升岡智子 

○子どもたちが，自分自身で学ぶために大切にしていること

理科の学習を行うにあたって子どもたちの学習のスタートラインを考えた時に考えられるのが，生活経験の差による違いがあります。そこで，子どもたち自身が，学習や生活をする中で「不思議だな」「どうなっているのかな」と思ったことを，学習課題へとつなげ，子どもたちが「こうすれば確かめられそうだからやってみたい」と，主体的な学びがより成立しやすいと考えています。



そのために，理科の全学習時間を通し単位時間ごとの課題に直接関係がない可能性がある疑問も自由に出せる雰囲気づくりと疑問を出すための時間を確保するようにしています。また，その時々子ども同士や教師との現象へのイメージや見方や考え方のずれ，現象に対する疑問を含んだ子どものつぶやきを，発言や観察，ノートなどから取り上げていくようにしています。

さらに，一人ひとりが主体的に考えた確かめる方法を実験としてできるかどうかなどをグループによる話し合いによって確認していけば主体性を損なうことなく学習を進められると考えています。そこで全員が意見を出し，計画に参加でき，考えを伝え合うことができる少人数でグループを構成し，できるだけ異なる意見を持った子ども同士の組み合わせにすることで，グループ内でも自分とは違う考えに出会う可能性を高めるようにしました。また，グループごとの実験結果を他グループへ公表することにより，実証性，再現性，客観性を確認するようにしています。